

# 五福会だより

11月号  
No.4

## 会員コラム

タイトル 原点に帰ろう × 阿部 昭三  
あべ しょうぞう  
名誉会長



八十歳は不思議な節目である。その一つは無心になって無欲になり、あたりが急に明瞭になる。なるほど、般若心経のいうところの色即是空とはこのことか。写真を撮りますというとなんか断る。その写真を保存してどうなるというのか。いつも間にか書棚に2000冊の本があって500冊程は未だに読んでいない。

もう100冊も読めないかと先日1500冊を放出しせいせいした。お金も日々五千円もあれば良いと思う。身体がぐっと軽くなったのは天から免罪符をもらったからだろう。つまりなんと言っても何を仕出かしても許されるのである。と自分では思い始めている。そんな中で一番気になるのは文明の進化である。

すさまじい。人間は幸福を求めて夢中だからだという。えっ？文明の進化が幸福？冗談じゃない、日々積み重なっている負の資産をどうするんだい？ヨーロッパ発の地球の資産は人間を豊かにするためにあるがこれが世界中に広まるとは100年、全ての生きものの中で一番優れているのは人間だから人間の欲求は正当である。つまりここから鉤を掛け違えちゃったのである。この間違った軌道の中で衣食住から何から何まで迎合がはじまり、その不都合な暮らしに順応させられている悲嘆に暮れている今日、この頃、私は反逆の姿勢を固守しようと決めている。

後白河法皇の梁塵秘抄(りょうじんひしょう)の今様に「戯れせんとや生れけん 遊びをせんとや生れけん」  
いいねえ、世はまさに応仁の乱の真っ只中、権力に右往左往する異劣を尻目に、このたおやかさ、これが日本文化の原点だ。海洋に囲まれた日本列島は温暖で豊かな国なのだ。だから最も反機能的な着物の文化が花開いていた。  
ゆったりと行こうぜ、この国は齷齪が似合わないんだよ。  
テレビを消して縁側に座っていると聴こえなかった虫たちの秋を告げる発信がじんわりと響いてくる。  
洋服じゃ失礼だぜ、ゆったり和服でさ。

### 11月イベントのお知らせ

2010年11月19日(金曜) ※雨天決行

今年ももうすぐ御酉様の季節がやってきます。  
「商売繁盛! 酉の市&お食事会」  
の参加者募集!!

どなたでも参加できます。  
お食事場所は『うさ美』さんです。  
※八王子市寺町49-3 電話 042-624-5461

集合時間: 18:00  
集合場所: 八王子市横山町  
「大鳥神社(お酉様)前」  
住所: 東京都八王子市横山町25-3  
参加費: 4,000円(お食事、お飲み物付き)  
※お食事(19:00)からの参加もOKです

※会員の方は別紙の返信はガキに出欠を明記の上、ご投函ください。



### 五福会は...

織物の街八王子を拠点とした「着物を着て街を歩こう!」という非営利団体です。着物好きな方を誘って遊びに出掛けましょう!と、2009、2010年夏に「着物を着て高尾山に登ろう!」という企画を行いました。メディアに取材もして頂き、楽しい山登りとなりました。八王子の方だけではなく、近郊の方も参加して頂き、この会が大きくなったらいいな、と思っております。

多くの皆様にご賛同頂けるように、「呉服会」だと重苦しいので「五福会」と名付けました。明るく、楽しい会になることを祈っております。

お問い合わせ、ご意見、新イベントの企画などがございましたらこちらまで...

ファックス、お手紙をお待ちしております。

(有) オフィスめぐみ 五福会事務局  
〒192-0041 東京都八王子市中野上町5-14-1  
TEL 042-622-9932 FAX 042-627-6678  
メール info@date-megumi.net

着物に関する記事や、一般の広告も募集中です!

イベントのアンケートを募集中です。ご協力をお願いします。

## 五福会

### 着物、ゆかたを着て高尾山に登ろう!

2010年8月25日(水)

今回で2回目となる「着物、ゆかたを着て高尾山に登ろう!」が行われました。

今年は猛暑の夏でしたので心配でしたが清々しい天気に恵まれ、お参りができました。精進料理の宴会では、八王子の芸者集が踊ってくれまして華やかな宴会となりました。



▲八王子芸者衆の舞踊



▲参加者みなさんの自己紹介中!



高尾の風景にとっても似合いました。



「五福会」で検索しますと写真がアップされています。

<http://souga.sub.jp/gofukukai/>



『背景』  
この唄は、昭和三年秋に八王子の織物組合が永井白眉(はくび)に依頼して作られた民謡であります。永井は作曲家の中山晋平宅を訪ねて作曲の依頼をした。中山が詩をみるとこう言った「はやし言葉がいい。ハッチョオリヤセは八王子を織り込んでいる。トシカラコノ織織りの音が聞こえ

正調 オリヤセ節(東京都)

一 桑の葉かげに ハッチョオリヤセ  
小窓が見える アリヤサノサ  
機を織る娘の アリヤサノサ 紅だすき  
トシトシカラコノ 紅だすき

二 都間近く ハッチョオリヤセ  
十里の西に アリヤサノサ  
ここは機場所 アリヤサノサ 八王子  
トシトシカラコノ ハ王子  
ヤレ トシカラコノ ハッチョオリヤセ

三 あついの思いの ハッチョオリヤセ  
打ち込みかたく アリヤサノサ  
誰にはかしょと アリヤサノサ 織る袴  
トシトシカラコノ 織る袴  
ヤレ トシカラコノ ハッチョオリヤセ

四 ならば紹羽織り ハッチョオリヤセ  
沙織のように アリヤサノサ  
透いてみせたい アリヤサノサ 心意気  
トシトシカラコノ 心意気  
ヤレ トシカラコノ ハッチョオリヤセ

「オリヤセ節」が誕生しました。  
振り付けは、三吉は芸妓組合長の糸丸らと「市丸座」に出ている水谷八重子のところへ行きました。芸居がはねてからだからこれも徹夜...  
こうして、八王子の民謡



宴会場で皆で踊りました。機を織るポーズができてきます。